

郷土紹介

二子の渡し



昔、多摩川流域には渡船場が二十ヶ所あったと云う。東海道の六郷の渡し、甲州街道の日野の渡し等が有名であるが、二子の渡しも矢倉沢往還(大山道)を利用する旅人にとって、とても大切な渡し場であった。その歴史を辿ると、寛文九年(一六六九)矢倉沢往還道路の葺、口村と二子村が宿駅(旅人を宿泊させた)り荷物の運搬の為、人馬を常時用意していた場所)に指定され、多摩川の渡しの仕事は二子村の渡し守が受け持つ事になる。当時、現在の二子玉川周辺は人家も殆んど無く、大部分が石河原や田んぼであった。そこ

で、この渡しは「二子の渡し」と呼ばれた。

江戸時代中期に入ると大山詣での人や江戸への物資の輸送で、この渡しは大いに利用される様になって天明七年(一七八七)瀬田村にも渡し船の許可が下り以後、二子の渡しは二子村瀬田村の共同運営となる。

新編武蔵風土記稿、二子村の項に「多摩川、村の北の方を流る。夏は船渡しにて、冬の間は橋を架せり」とあり、渡し船は河の水量が多い時期に利用された事がわかる。

二子の渡しは大正十四年(一九二五)二子橋の完成により、その役目を終えた。



(飯田)

おいしく食べて夏をのりきる

用賀出張所職員

夏、子どもも大人も、食欲が落ちて疲れやすい季節ですね。そんな時はこれ！出張所職員のおいしいレシピを紹介しします。

①海老のゼリー寄せ(小皿)

②海老は背線をとって酒蒸しにする。

③海老の蒸し汁に白ワインを加えフランベしてアルコ

ール分を飛ばす。

④②を加熱し顆粒スーアの

素を加え味を整え、ゼラチンを入れ加熱を取る。

⑤④をリン型等に①の海老と③の

スーアを入れて冷蔵庫で固

めて完成。冷酒の肴や果物

によく合う。

⑥焼肉のさばりサラダ(平内)

⑦肉(牛・鶏等)に塩・胡椒

してアミで焼く。

⑧酢

食べて元気に

酒、醤油、レモン汁でマリネ液を作る。③④のマリネ液に①の肉と、スライス玉葱、レモンの輪切、パセリを入れて30分ぐらい漬ける。④スライス玉葱、きゅうりの千切り等の上に③をのせて完成です。

⑤梅干し活用料理四品(増田)

①冷や、この上に和風ドレッシングと合

せて、

②鶏肉を煮る(梅干

醤油、酒、みりん、砂糖)

③スパゲッティの上に練

梅と大葉と海苔を一緒に、

④梅干しとちりめんじゃこを

あわせてご飯の上に、

おいしく食べて、元気に

過ごしましょう。



ふるさと海草向島

重宝早苗 園田文子

朝早くから豆腐、あさり売り、自転車や天秤を担いで売り歩いていました。

私は長女でしたので、母に「味噌豆を買って来て」と云われて、ドンブリを持って家の前に立っ

ていると、豆腐屋のおじさんが「えらいね、

お母ちゃんのお手傳い

かい」と云って、湯気の

の立つ味噌豆をドン

ブリに入れて、おまけに背

ノリをたくさんかけて呉れ

た事を覚えて居ります。

家の玄関の、ゾウキン掛

けをよくごせられました。

二本のレールはお父ちゃん

とお母ちゃんのお頭なんだよ

だからいつも教居はきれいに

しておかなくてははいけな

スポーツ

今年の夏の行事

①盆踊り

用賀くすのぎ公園

7月24日(水)25日(木)

玉川三丁目高架下

7月26日(金)27日(土)

瀬田小学校

7月27日(土)28日(日)

用賀小学校

8月23日(金)24日(土)

②子ども吹奏会

上用賀アートホール

7月23日(火)

瀬田小学校

8月7日(水)

用賀区民集会所

8月23日(金)

③せたがや区民まつり

8月3日(土)4日(日)

④たまがわ花火大会

8月17日(土)

⑤用賀納涼の夕べ

8月19日(月)

わが故郷

いんだよ」と教えられて育ったものです。

向島方面は橋とお寺の多い町でした。近所には法恩寺橋、もみじ橋と云うのが有りました事を子供心に記憶して居ります。隅田川のお花見が終わると次は船遊びです。法恩寺橋のたもとに石の階段が有り、

そこから船に乗り、船頭さんが手さばき良く竿でござ、間もなくすると海が見えて、今思

えば東京湾が満ちあたりだと思えます。そして船頭さんが投網を始め、それ

た魚をそのまゝ船の上で

天ぷらにしてくれます。

昔の下町は、子供にと

ても楽しい町だったと

思います。



日本中がサッカーワールドカップで熱く燃えたせい、早々と台風6号の来襲を受けたりして急に本格的な夏がやって来ました。

待望の夏休み。夏期休暇。今年の予定は？夏だからこの行事が当地域でいろいろ企画されている様です。誰もが楽しめるパ

リアフリー完備の兵庫島での水遊びもよし、浴衣姿での踊りの輪に入るのも又違った楽しみ方でもあるでしょう。

その前に先ずは夏バテ解消!! 出張所職員考案のスタミナ食で、この夏を元気に楽しく過ごせることを、協賛委員一同願っています。



(鈴木君)